



わがわが

たがが  
すし



STORY BOOK

こども 

ミュージアム

プロジェクト



こどもミュージアムトラック  
誕生ものがたり



## トラックの仕事と交通事故

私たちはトラックが大好きなトラック野郎です。

子供の頃から憧れていたピカピカの大好きな車体。  
そんなトラックを運転することが大好きな喜び。  
日本のライフライン、物流を担う誇りを胸に、  
高い運転席、大きなハンドルを両手で握り、  
日本全国を駆け回る。

そんな私たちにとって、  
一番、辛いのが交通事故の問題。  
ヒトの命にも関わる大きく重たい問題。

しかし、物流に携わる以上、  
目を背けることのできない大きな課題。

どうしたら交通事故が無くなるのか？  
真剣に、真剣に考えました。  
何度も、何度も考えました。真剣に



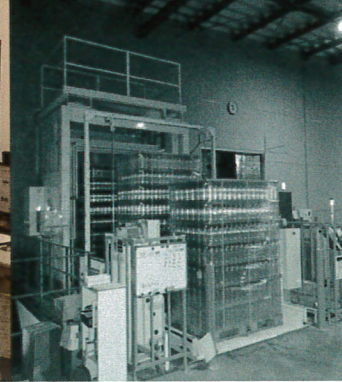
## 安全運転に必要な運転士の「良心」

運送会社は、  
事故防止のために様々な取り組みをしています。  
毎日の点呼や、研修、組織づくり。  
IT機器の導入も進んでいます。  
デジタルタコグラフ、  
バックアイカメラ、  
ドライブレコーダー、  
車内を写すドライブレコーダー……。  
それでも劇的な改善は望めず、  
今度は何を取り付けたらいいのやら、  
というのが正直な気持ちです。

また、組織においては運送会社と運転士が「管理する側」と「管理される側」といった関係になり、安全への取り組みが義務的で窮屈な物になりがちです。

もちろんこれらの対策は重要で、  
今後も確実に実施していきます。  
しかし、運転士に心のゆとりや優しい気持ちが無ければ事故は無くならない。  
私達は、そう思い至りました。

管理体制や機械だけにたよらず、運転士の「良心」を呼び起こすにはどうしたらいいのでしょうか。



## 「こどもミュージアムトラック」誕生

そんな時、一人の運転士がダッシュボードに自分の子供が描いた絵を飾っていました。その絵には子供の字でこう書き添えられています。

「お父さん いつもありがとう  
あんぜんうんてん がんばってね」

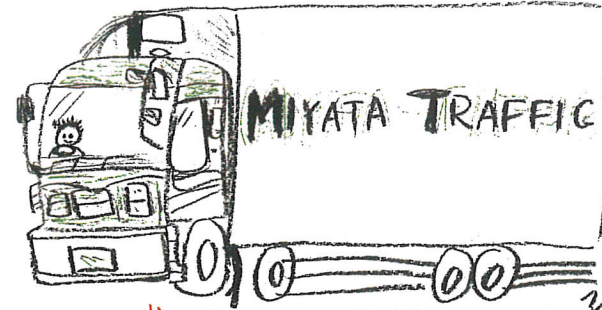
子供が一生懸命描いたものが真っすぐに心に届く。そう気づいた瞬間でした。

異業種の会社で、安全標語を子供達が描いているという事例も知りました。子供達の絵とメッセージをポスターにして社内で共有してはどうだろう。

しかし交通事故は一人で起こすものではなく、自社だけが良くなっても解決とは言えません。全ての人々に子供達の絵とメッセージを感じてもらえる場を作りたい。そんな思いから、子供達の絵でトラックをラッピングするというアイデアが生まれました。

「こどもミュージアムトラック」の誕生です。

お父さんいつもありがとう



あんぜんうんてん がんばってね

おしごと



がんばってね!

おとうさん

がんばってね!



いつも仕事ありがとう

## 起こり始めた変化

こどもミュージアムトラック納車日、私達は今か今かと待ち焦がれていました。

鮮やかにラッピングされたトラックが営業所に入ってきた時、スタッフ全員から歓声と拍手がおこりました。

すると、納品に立ち会っていた営業マンの目から涙がこぼれたのです。「25年間トラック販売を続けてきたけれど、値段を叩かれるばかりで納車の際に喜ぶ人など無かった。

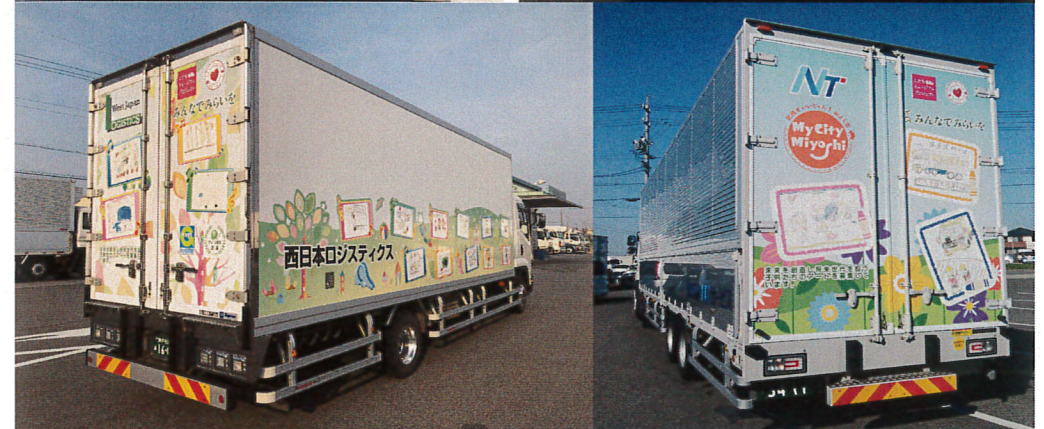
しかし私売っているトラックは、こんなにも人を喜ばせる物だったんだ。」そう気づいての涙だったそうです。

このトラックに乗ると、運転士達は自然と無茶な運転はできなくなります。今まで以上、車両を大切にするようにもなりました。休日に営業所の駐車場で自分の子供と一日中トラックを磨く運転士もいます。彼の子供達も、トラックの運転士になりたいと思うようになったそうです。

「この絵、なんかグッとくる」「写真とってもいいですか？」サービスエリアで休憩していると、こんな声を掛けられることもよくあります。

後続の車を運転している方も気持ちが柔らかくなるのでしょうかクラクションを鳴らされる事も減ったように感じます。

そして、その連絡が突然ありました。大阪府から学校給食輸送の依頼です。「子供達の給食、こいう想いを載せたトラックで運んでほしい。」私達のトラックを見て発注を決めて下さったそうです。



## 日本中に こどもミュージアムトラックを走らせよう

交通事故を望んで起こす人など誰もいません。  
ちょっとイライラして。  
時間がなく急いでいて。  
仕事で疲れていて。  
いい所を見せたくて。  
ほんの少しの迷いが、大きな事故を招いてしまいます。

「一時停止をきちんとし、しっかり左右の安全確認を行う」  
これだけで、多くの事故は防げるそうです。

こどもミュージアムトラックは、運転士にも見る人にも  
心のゆとりを取り戻させます。  
誰の心にも必ずある「優しくしたい・世の中を良くしたい」  
という気持ち呼び起こします。

こどもミュージアムトラックを日本中の道路に走らせたい。  
そうすれば、交通事故は減らせます。  
みんなが少しずつ、優しくなります。

日本の全てのトラックが、こどもミュージアムトラックになる  
ことを私達は夢見ています。

## プロジェクト関連事業

こどもミュージアムプロジェクトは未来への想いを繋ぐ色々な活動  
を取り組んでいます。見ている人々の気持ちが優しくなるだけでは  
なく、絵を描いて頂いている子供達が様々な所で自分の絵を見  
て、自分が必要とされている気持ちになり、自信と誇りを持つよう  
になると思います。自己肯定感を持つと、力を十分に発揮できます。

誰かのためにお役に立ちたい、誰かのために行動したい、という  
気持ちは将来の自分とつながります。そういう人たちを増やしてい  
けば、きっと優しさが満ちている世の中になると私達は確信してい  
ます。

宮田運輸はこういう仕組みを作っています。



「ありがとう」と言われた事に喜びを感じて貰えるような環境を創りたい、子供達に自分の描いた絵が、人のために役に立つ事の大切さを、言葉ではなく、体験して貰いたい、私達は子供との触れ合い場を沢山設けています。

- 紙芝居プロジェクト
- お絵描き大会
- 職業体験など